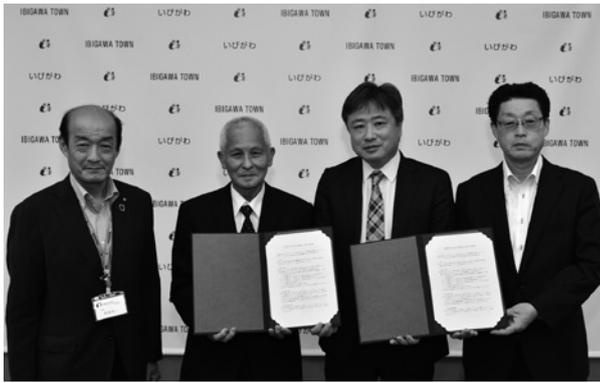


災害時における防災活動協力の報告式に関する協定書締結の報告式について

極楽寺区及び株式会社イノアック住環境揖斐川事業所は、5月20日(木)に災害時における防災活動協力に関する協定書の締結を行ったことから、6月2日(水)に町へ締結に関する報告式を行いました。

協定書の内容として、大規模災害が発生し避難の必要が生じた場合において、極楽寺区民の一時避難先として、イノアック住環境揖斐川事業所の施設の一部を提供し、飲料水及びトイレ、通信端末の充電、テレビ・ラジオで知り得た災害情報の提供等を行います。



▲報告式の様子(左から岡部町長、新川区長、イノアック弓矢本部長、伊丹副区長)

平和大行進で核の廃絶を訴える

6月15日(火)、核兵器の無い平和な世界を目指して行進する「国民平和大行進」が行われました。

この取り組みは、原水爆禁止を願って被爆地である広島・長崎へ向けて歩き続けるもので、今年も5月6日から8月4日まで、全国11コースで実施されます。

今年には新型コロナウイルスの感染拡大防止・予防の観点から、例年のような大行進は実施されませんでした。「核兵器のない世界を」という願いを込めて揖斐川町を敬訪問されました。

役場で出迎えた岡部町長と大西議長から、激励の言葉と合わせて、平和への願いが込められたペナントを平和大行進の代表者に手渡されました。



▲原水爆禁止・核兵器のない世界を願って

地域おこし協力隊 金子誠司さん 着任

① 地域おこし協力隊は、都市部の住民が地方に移住し、地域おこしの担い手となる総務省の制度で、全国の地方部で多くの隊員が活動しています。

② 揖斐川町でも、5月より新たに金子誠司さんが着任しました。紹介にあたりインタビューを行いました。

③ 地域おこし協力隊になろうと思ったきっかけ

都内で約5年間暮らしていたのですが、都会の先進的な街並みより、地方の自然に囲まれた環境のほうが自分に合っているのでは？と徐々に思いはじめ、地方への転職を考えていました。そんな中で地域おこし協力隊という制度を知り、地域に密着しながら魅力を発信、課題解決にあたることで地域活性化に取り組むという仕事内容に惹かれ、応募しました。

④ 揖斐川町の印象

都内からきて印象的だったことは常に山や川といった自然の景色が見え、視界がとても広いと感じ

たことです。また都内では深夜になっても灯りがついていたりと、生活音が聞こえてきたりすることがあったのですが、揖斐川町は夜が真つ暗で静かになるので、心もちゃんと休まる感じがします。

⑤ 協力隊として活動したいこと

どこか懐かしさを感じつつも、日本らしい風景を活かした新しい体験を作りたいと思っています。揖斐川町の自然豊かな景観や歴史と、現代のデジタル技術等を組み合わせたい体験型の観光イベントを企画していくことで、町民の方々には思い出がよみがえるきっかけになったり、町外の人には揖斐川町を知ってもらおうきっかけになればと考えています。



▲金子誠司さん